

## 陸上競技で 大山町大活躍!

西伯郡郡民体育大会陸上競技の部が、6月16日に名和総合運動公園で行われました。大山中学校3年の井上威吹さんが選手宣誓を行い、大会への意気込みを述べました。

小学生から一般まで多数の選手が参加した今大会。大山町は一般の部で総合優勝、中学生の部でも大山中学校が見事総合優勝を果たしました。

小学男子ボール投げでは舩越 爽さん(大山西小)、中学女子400Mリレーでは大山中学校、一般女子800M(三部)では西村佳哉乃さんがそれぞれ大会新記録を樹立するなど、本町の選手が多くの種目で上位入賞し、総合優勝の原動力となりました。



▲中学2年男子100Mでは1位から6位までを大山町が独占

## まちのたから (42) 文化財室通信

### シリーズ 「日本遺産」 第16話

今回は第4章のまとめとして、大山まいりに関することを紹介します。

#### 「大山まいり」

大山信仰の拠点である大山寺に参拝することを「大山まいり」と言います。神仏習合の頃、大山寺にまつられていた本尊は、地藏菩薩を本地とする大智明権現と呼ばれた神でした。そのため、大山寺の春の例祭日は地藏の縁日である24日に因み、4月24日でした。この祭りでは、神輿行列(御幸)が行われるため、これを見ようと近隣諸国から人々が大山寺へと集まりました。当初の牛馬市は、春祭りの日に開かれていましたので、この日には牛馬関係者も集いました。

一番人が多く集まるこの日は、鳥取藩でも国境の番所の通行人改めを緩和するなど、特別なはからいがなされるほどでした。

#### 大山まいりをする人々

以前にご紹介した廻国行者や牛馬市に関わる博労、山陽方面の方々の他界信仰など、大山へ訪れる人々は、それぞれに目的や思いを持ってやってきました。



▲豪円山山頂の豪円地藏

#### 豪円僧正と養蚕

江戸時代、弓ヶ浜半島を中心とした地域では、畑作物として綿栽培が盛んでした。綿の種をまく時期が春祭りの頃であるため、農作業の区切りとして「大山まいり」までに種を蒔いてしまおうと、人々は農作業の励みにしていました。

養蚕は、大山寺中興開祖とされる豪円僧正が、蚕の種を持ち帰ってこの地域に広めたと言われています。このため、春祭りには養蚕農家の人々が豪円僧正に感謝と繁栄を願ってお参りしました。昭和の中頃まで、お

参りに来た人が持参して供えた真綿によって豪円地藏が白くなる程だったそうです。

#### 雨乞い祈願

大山の水は霊験があるとされ、雨乞いで大山へ参る人もありました。日照りが続きいよいよ水不足となると、村の代表者が酒の入った樽を担いで大山が上がって大山寺で祈禱を受け、その後、赤松の池で樽酒を池に注ぎ、かわりに池の水を樽いっぱいに入れて帰りました。この樽を地面に降ろすとその場所に雨が降るため、村に帰るまで樽を交代で担いで帰ったと伝わります。

#### 十三詣り・二つ児詣り

子どもが13歳になると、春祭りの日に大山まいりをしたと伝わります。そして土産として、竹の皮に包んだ「大山あめ」を買って帰り、村人に配りました。13歳の年に参詣すると、13回参ったのと同じご利益があると信じられていました。

地域によっては親が背負って大山寺に初参りする「二つ児詣り」など、年齢の位置付けが異なることもあり、基本的には子どもの無病息災と健やかな成長を祈る行為でした。

このように人々は、さまざまな理由や想いで大山へやってきました。それは「大山信仰」の多面性を現しているのではないのでしょうか。

(社会教育課 文化財室)